

図書を選書・受入・目録

東京大学附属図書館情報管理課 尾城友視

令和4年度国立大学図書館協会
東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー

2022年11月11日

東京大学総合図書館3階大会議室



This work is licensed under a [Creative Commons Attribution 4.0 International License](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/).

自己紹介

総合図書館の図書購入が
主な仕事です

- 尾城 友視（おじろ ともみ）
- 東京大学 附属図書館 情報管理課 選書受入担当（2021.04～）
 - 2011.08-2014.03 一橋大学附属図書館コンテンツ係
 - 2014.04-2016.12 一橋大学広報室広報係
 - 2017.01-2021.03 一橋大学附属図書館レファレンス係

外部委員等

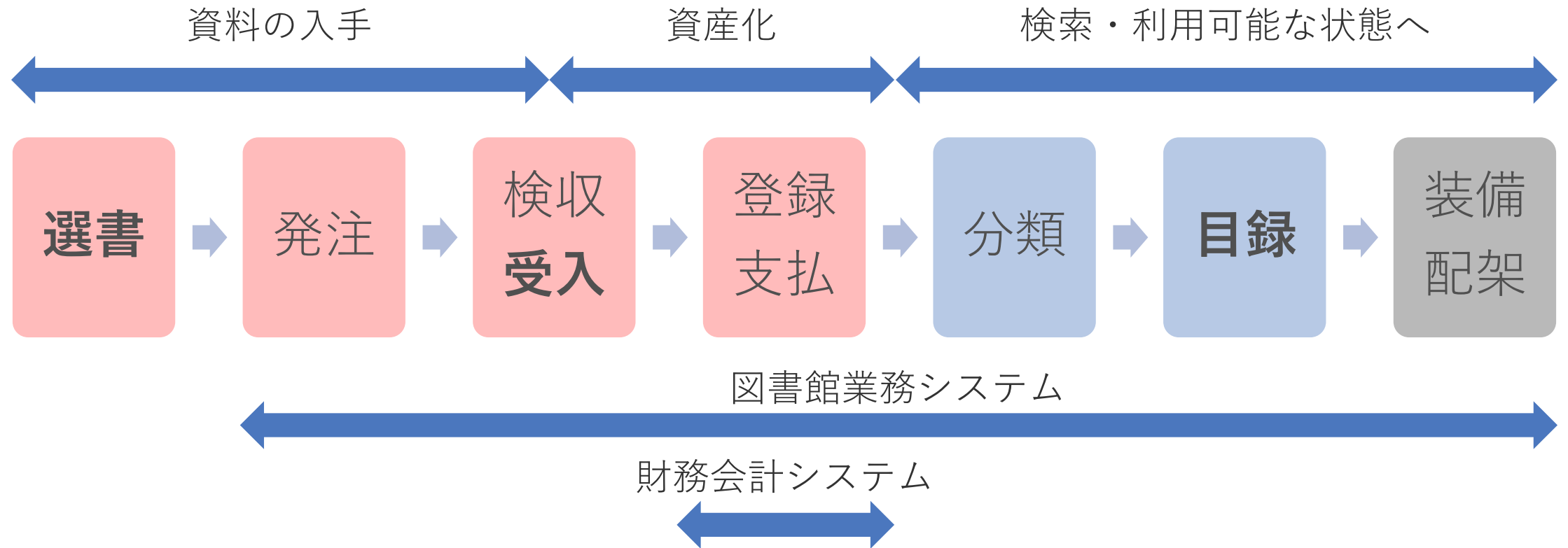
- 国立大学図書館協会 資料委員会（2022～）
 - オープンサイエンス小委員会タスクフォース（海外RDM支援の事例調査）
 - 国立大学図書館協会 東京地区協会助成事業（2020～）
 - LibrarianMap企画・運営メンバー ※今年はオブザーバー
-
- 『情報の科学と技術』編集委員会（2022～） ※業務外

本日の内容

- 業務の概要
- ここ10年の動向
- ここ3年で思うこと

業務の概要

選書・受入・目録業務の全体像



選書業務

- 図書の選定＝蔵書構成の最初のステップ
- どうやって選ぶ？
 - 収集方針と選定基準
 - 資料重視型＝資料そのものの価値に重きを置く
 - 利用者重視型＝利用者の要求・ニーズに重きを置く

蔵書構成とは

図書館蔵書が**図書館のサービス目的を実現する構造となるように、資料を選択、収集して、計画的組織的に蔵書を形成、維持、発展させていく意図的なプロセス**であり、収集方針の決定と調整、ニーズ調査、利用（者）調査、蔵書評価、資源共有計画、蔵書維持管理、除籍などの諸活動が含まれる。

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典 第4版』丸善出版、2013

大学図書館における選書の要素 + α

どんな大学？

総合大学／単科大学
学部構成
学生数
etc.

館種は？

中央館／分館
部局の図書館室
資(史)料室
etc.

目的は？

教育
研究
アーカイブ
etc.

東京大学総合図書館の場合

- 所在：東京大学本郷キャンパス
 - 学部3-4年生、院生
 - 教員、研究者
- 蔵書数：約130万冊
- 閲覧席：1,111席
- 来館者数：約38万人（2021年度）
- 貸出数：約17万冊（2021年度）※近年増加傾向



総合図書館の収集方針と収集基準

原則

I. 総合図書館における資料収集の原則

研究用図書の整備は、各部局図書館に委ね、総合図書館では**学部学生のための学習用の基本的な和書**を中心とした収集整備に当たることを原則とする。

「総合図書館における学習用図書収集整備の方針について」(平成7年12月8日 図書行政商議会)

収集対象

(一般収集資料の種類)

4. 総合図書館は、次の5種の資料を中心として収集する。

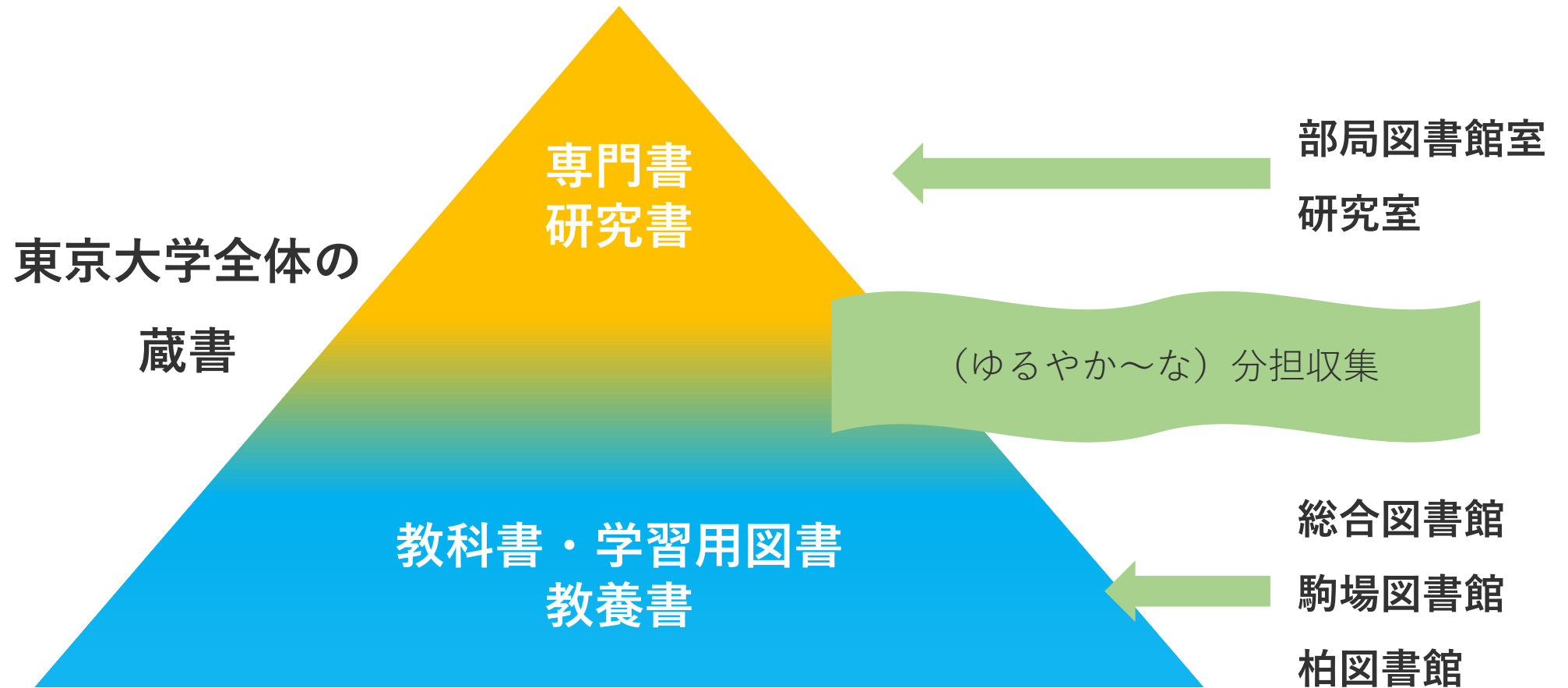
- (1) 教養・学習用資料
- (2) 学際分野・複合分野の研究用資料
- (3) 参考資料及び広域分野二次資料
- (4) 本学関係資料
- (5) 図書館関係資料

「東京大学総合図書館資料収集基準」
(平成9年11月21日 図書行政商議会承認)

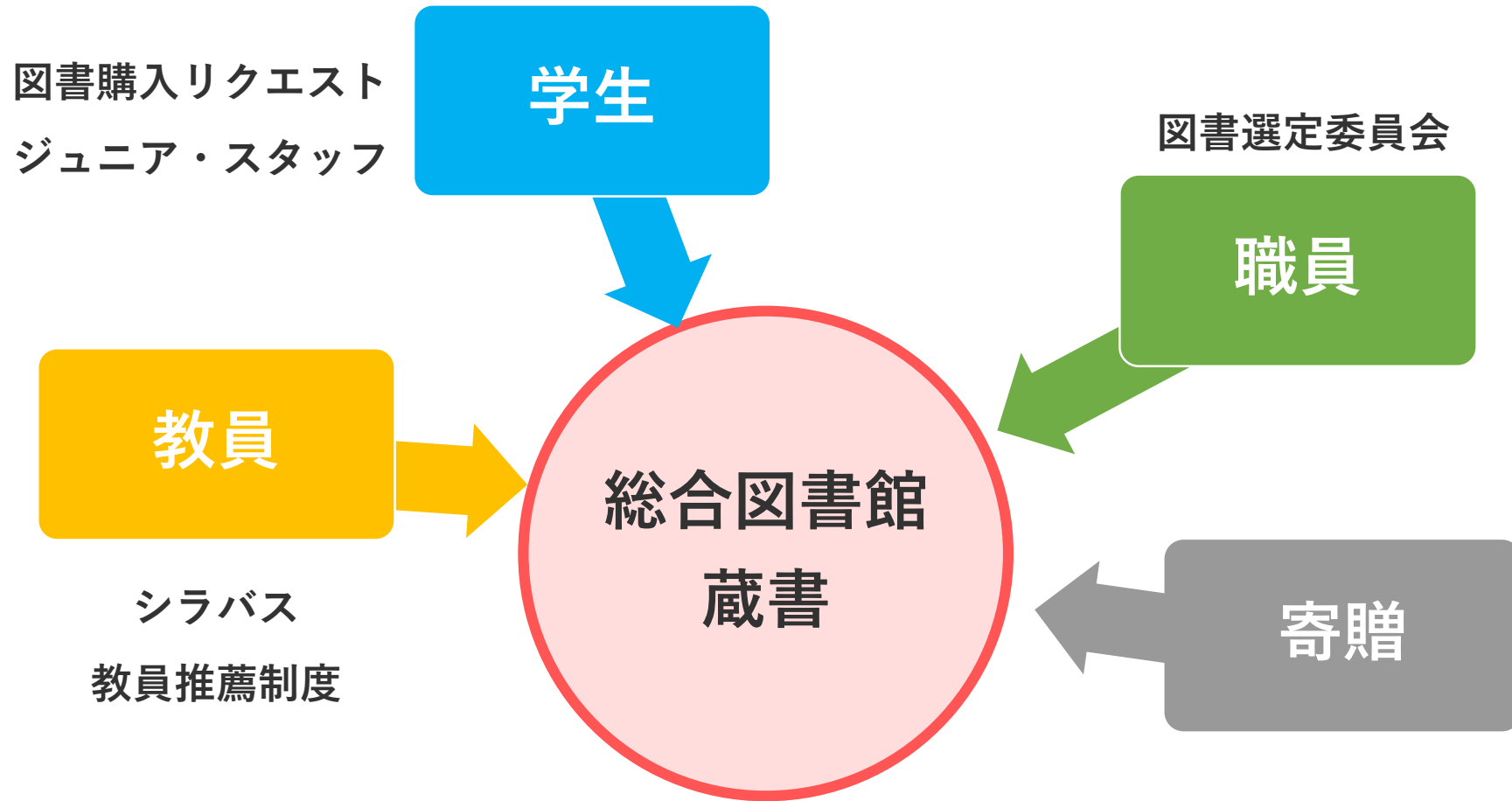
さらに細かい内容を定めた
「選定要領」もあります

現在の状況に
合っている??

学内での分担収集



異なる視点での選書



ジュニア・スタッフ選書・展示

- 新刊図書から学生が選定
- オススメ本のPOP作成



はじめての動物倫理学 (集英社新書)

著者：田上孝一

集英社 (2021年3月17日発売)

 [Amazon.co.jp](https://www.amazon.co.jp)

★★★★☆ 3.86

本棚登録：286人 感想：15件

登録済み



東京大学総合図書館さんの感想

編集

—現在の人類による動物利用は、不正だが仕方のない必要悪ではなく、単なる悪に成り下がってしまったのである— (本書「はじめに」より)
肉食は罪か？動物実験は必要悪か？ペットは減らされるべきか？
人間と動物との関係を問い直し、実践まで論じる倫理学の新しい理論書。

理学部・3年 (総合図書館ジュニア・スタッフ)

東京大学総合図書館ブログ <https://booklog.jp/users/utokyogenlib>

受入業務

重複調査

- 所蔵資料との重複を調べる

発注先検討

- 確実に安価で早い書店へ
- 洋書は（特に最近）悩ましい

発注

- 書店のWebサイトや営業を通じて発注

検収

- 発注した図書と相違ないか
- 乱丁、落丁、汚破損はないか

登録

- 図書館資料として＝図書館業務システムへ
- 大学の資産として＝財務会計システムへ

支払

- 伝票の作成

大学資産としての図書扱い

- 国立大学法人会計基準等
 - 文部科学省「国立大学法人会計基準について」
 - https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/houjin.htm
- 各大学の会計規程、附属図書館規程
 - 例) 「東京大学会計規程」「東京大学固定資産管理規程」等
 - 例) 東京大学附属図書館「図書・雑誌の取扱いについて」等

貸借対照表

(令和4年3月31日)

(単位:百万円)

資産の部		
I 固定資産		
1 有形固定資産		
土地	888,427	
減損損失累計額	<u>△ 5,030</u>	883,397
建物	467,072	
減価償却累計額	<u>△ 226,028</u>	
減損損失累計額	<u>△ 359</u>	240,684
構築物	42,148	
減価償却累計額	<u>△ 20,046</u>	22,101
機械装置	2,753	
減価償却累計額	<u>△ 2,112</u>	640
工具器具備品	281,586	
減価償却累計額	<u>△ 231,027</u>	50,559
図書		45,273
美術品・收藏品		3,136
船舶	330	
減価償却累計額	<u>△ 298</u>	
減損損失累計額	<u>△ 6</u>	25
車両運搬具	872	

ルールに沿って
厳密に管理されて
いる

目録業務

- 目録＝蔵書の一覧（資料1点ずつの記述）
- 利用者が資料にアクセスできるようにするもの
 - **書誌情報**：タイトル・著者名・件名等による検索可能性
 - **分類・請求記号の付与**：資料の特定、ブラウジングでの資料発見
 - 日本十進分類法（NDC）、デューイ十進分類法（DDC）等
 - 独自分類法

東京大学アジア研究図書館分類表

- アジア研究図書館：2010年10月に総合図書館4階に開館
 - アジア研究に関する資料の収集・提供
 - 配架冊数：38,770（2022年3月31日時点）

- アジア研究図書館分類表

- 地域＞言語＞主題の3段階

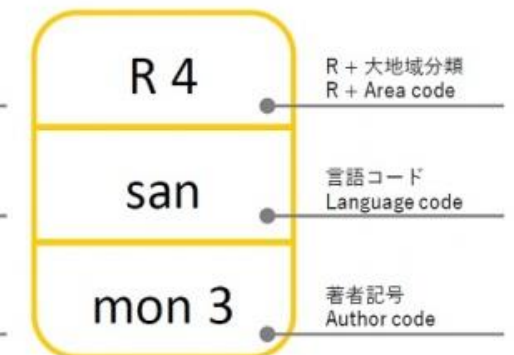
詳しくは...

U-PARL 編『図書館がつなぐアジアの知：分類法から考える』
（東京大学出版会, 2020.3）

《一般書 Books》



《辞書類 References》



国立情報学研究所目録所在情報サービス NACISIS-CAT/ILL

- 全国規模の総合目録データベース（NACISIS-CAT）
 - 1985年運用開始
 - どの大学がどんな資料を持っているか？（→ **CiNii Books**）
 - オンライン共同分担目録方式→**目録業務の省力化、品質維持**
- 図書館間相互貸借サービス（NACISIS-ILL）
 - 1992年運用開始
 - 総合目録データベースにもとづくILLシステム
 - 文献複写、現物貸借の依頼・受付

NACSIS-CATの規模

接続機関数（2022年3月31日時点）

機関種別	機関数
国立大学	86
公立大学	98
私立大学	589
短期大学	105
高等専門学校	55
大学共同利用機関	14
海外機関	145
その他	249
合計	1,341

登録書誌件数（2022年3月31日時点）

	図書書誌	雑誌書誌
NACSIS-CAT	12,270,565	359,356

国立国会図書館書誌データ作成件数（2022年3月31日時点）

	図書書誌	雑誌書誌
国立国会図書館	12,586,484	275,177
	図書＋非図書	逐次刊行物

NACSIS-CAT/ILLの新たな展開

- 2020年8月：CAT2020運用開始
 - NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化
 - 一部機能の改修と運用変更
- 2022年1月末：新NACSIS-CAT/ILL運用開始（予定）
 - 電子的資料の増加、国際標準への対応など
 - 新システムへのリプレイス
 - **11/16「CAT/ILLリプレイス&電子リソースデータ共有サービス説明会」**

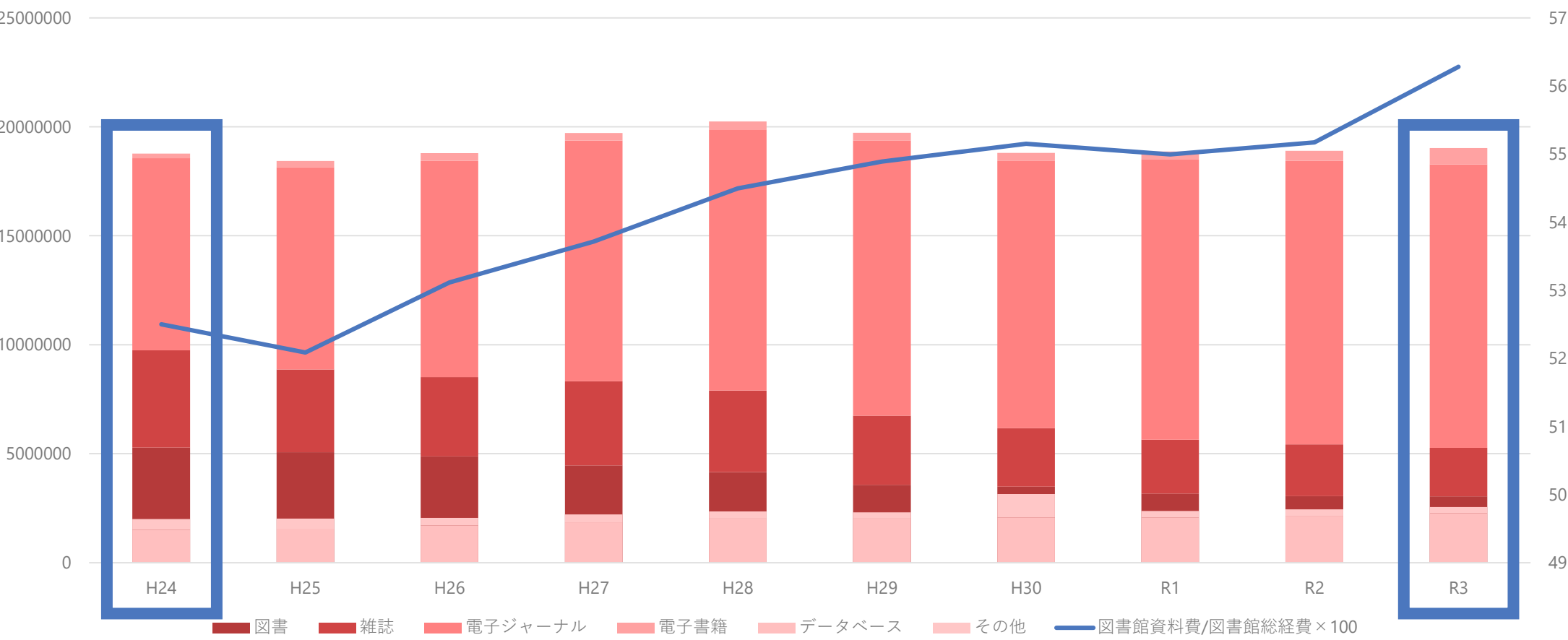
NACSIS-CAT/ILLの新たな展開

- 2015年5月『**これからの学術情報システムの在り方について**』
 - 課題① 電子情報資源のデータ管理・共有のワークフローの検討
 - 課題② NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)
 - 検討作業部会の設置
- 2018年10月『**NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（最終まとめ）**』
- 2019年2月『**これからの学術情報システムの在り方について(2019)**』
 - 課題① 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築
 - 課題② 持続可能な運用体制の構築
 - 課題③ システムの共同調達・運用に向けた課題検討
 - 「**図書館システム・ネットワークプロジェクト2022**」の立ち上げ

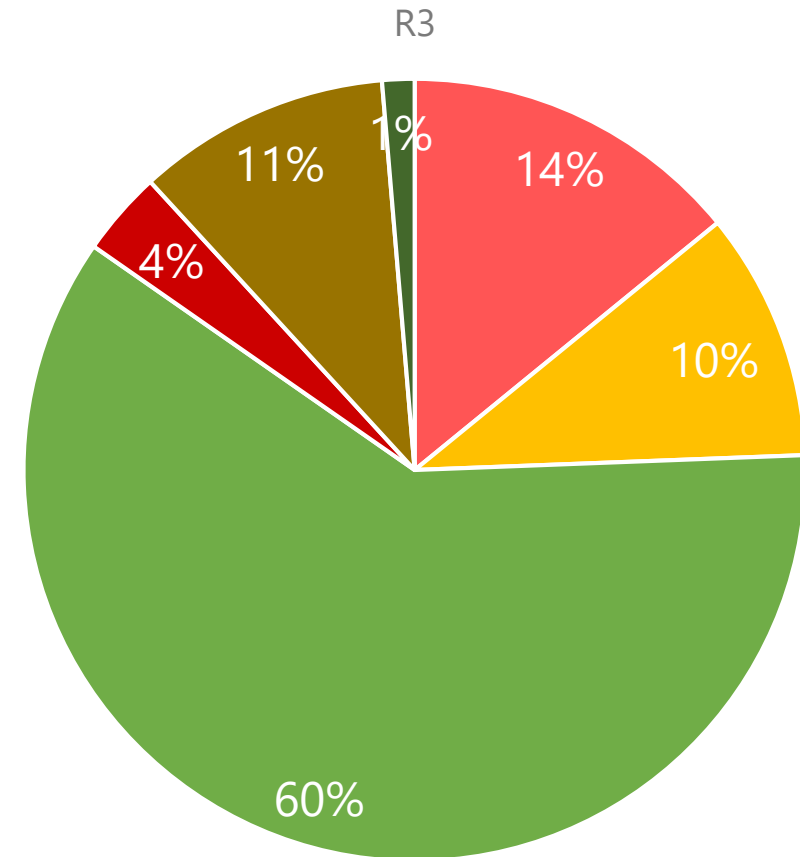
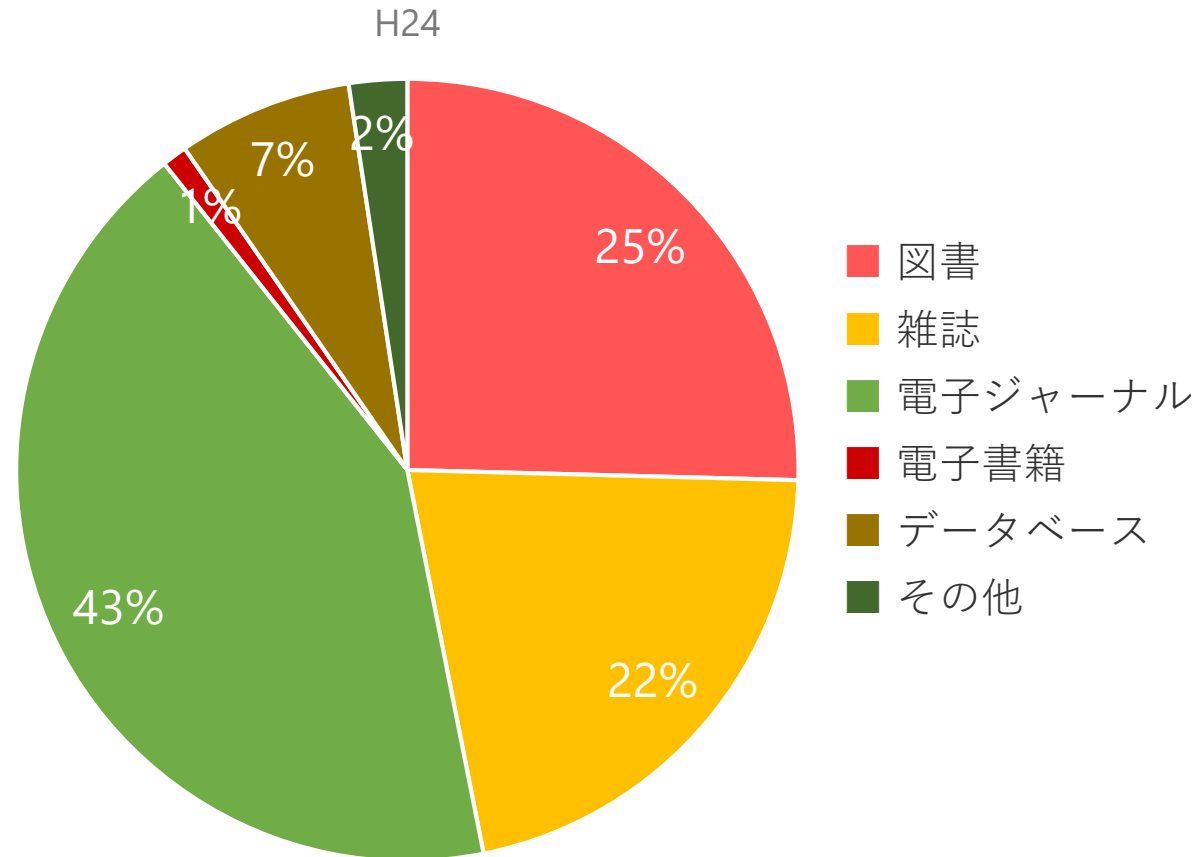
ここ10年の変化

国立大学の図書館資料費の推移

学術情報基盤実態調査より



電子的資料の増加



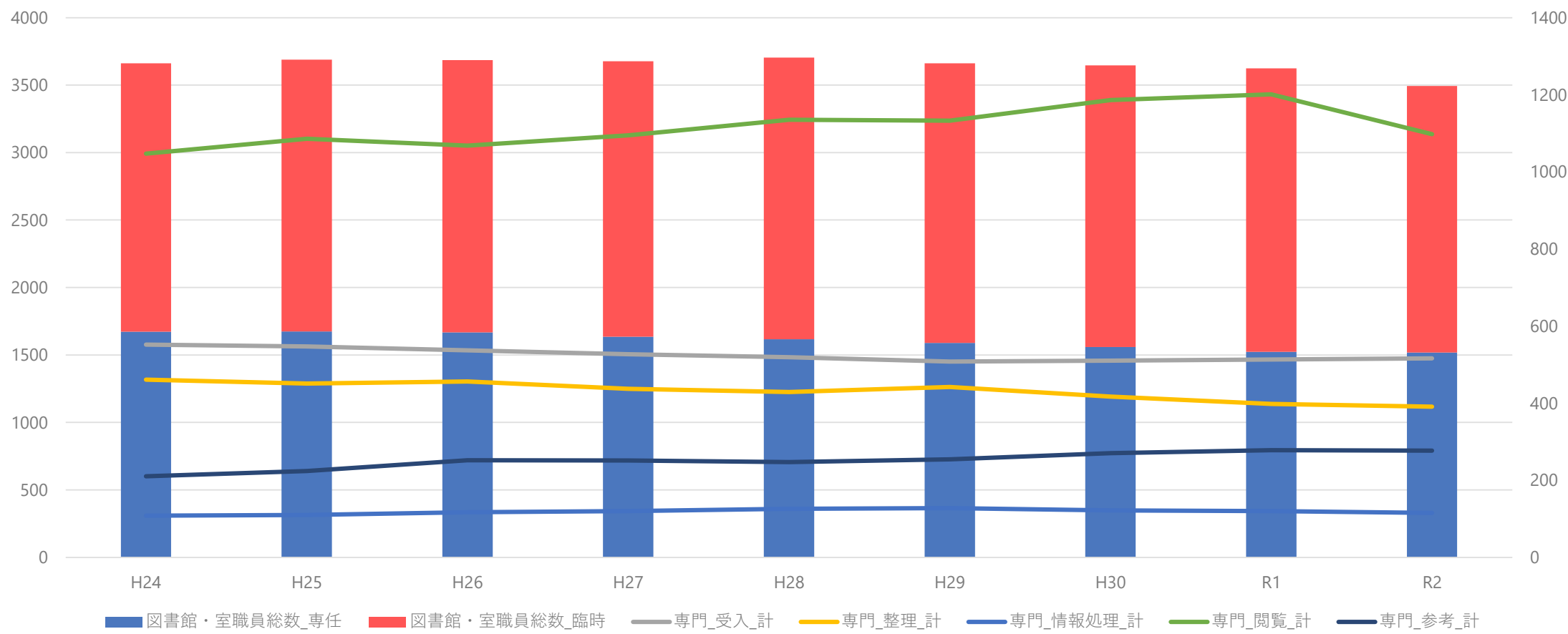
国立大学の電子書籍タイトル数の推移

学術情報基盤実態調査



国立大学の図書館職員数の推移

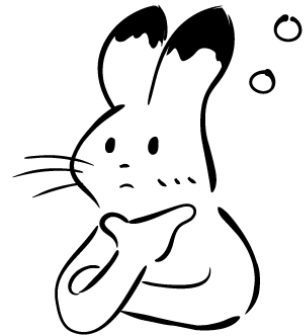
学術情報基盤実態調査より



ここ3年で思うこと

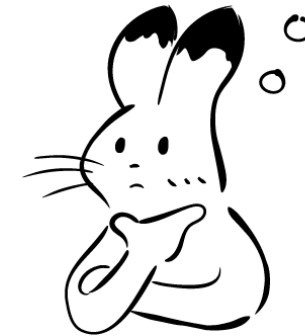
やっぱりコロナ禍では
色々と考えさせられたなあ

コロナ禍を契機に
加速したこともあるけれど...



世界情勢や経済動向の
影響も大きいぞ

円安・物価高・物流...
ロシア書が届かない...



図書館休館プロジェクト

- <https://closedlibrarycovid.wixsite.com/website>
- コロナ禍での図書館休館に伴う代替的支援施策を要求
- 社会科学系の若手研究者が中心
- **図書館休館による研究への影響についての緊急アンケート**
 - 実施期間：2020/4/17～2020/4/30
 - 有効回答数：2,519

緊急アンケート結果からの抜粋

※「最終集計結果（単純集計表）」もぜひご覧ください。

1. 調査結果のポイント

① 研究への影響

- ✓図書館休館で研究に「非常に重大な影響がある」人が約6割
- ✓卒論・修論・博論提出に「間に合わない」学生が約7割

② 利用している代替手段

- ✓必要な文献を「私費で購入」が6割強
- ✓「オンラインデータベース・電子ジャーナル」の利用が約6割

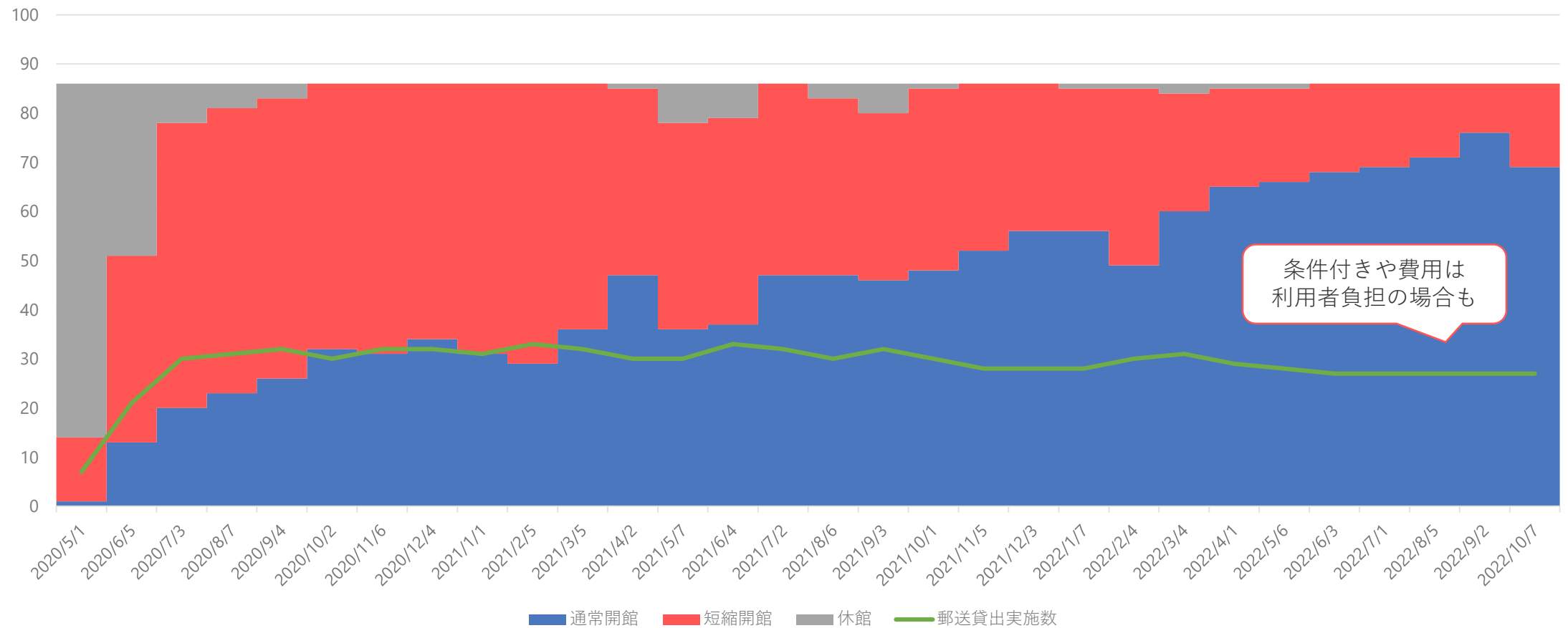
③ 研究を続けるために望む支援

- ✓「デジタル化資料の公開範囲拡大」を望む人が7割超
- ✓非来館型の貸出サービスを望む人が7割超

https://7a64ccfc-4343-4e56-831b-78b6fa3c99c3.filesusr.com/ugd/f24217_d960f0ab8d794eed98a28baab93f4312.pdf ²

国立大学の休館状況と郵送貸出の拡がり

saveMLAK国立大学図書館開館動向調査より



令和3年著作権法改正

- インターネットを通じた図書館資料の利用が一定の範囲で可能に
- 背景：コロナ禍での図書館の休館等の影響

2020年7月	文化庁「図書館関係の権利制限規定の在り方に関するワーキングチーム」設置
2020年11月	『図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する報告書』
2021年5月26日	「著作権法の一部を改正する法律」成立
2021年6月2日	「著作権法の一部を改正する法律」公布

第31条（図書館に関する著作権の制限規定）の見直し

① 国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信

- 2022年5月19日「個人向けデジタル化資料送信サービス」開始

② 図書館等による図書館資料のメール送信

- 公布から2年以内で政令が定める日から施行
- 調査研究のために著作物の一部分をメールで送信可能
- 調査研究に必要な範囲で印刷可能
- 一般に入手可能な資料も対象
⇒権利者保護要件、補償金制度の導入

果たして
利用は進むのか...？

国立大学の電子書籍タイトル数の推移（再掲）

学術情報基盤実態調査



電子ブックの「不適切利用」

- 2022/4/5： Maruzen eBook Library書籍ダウンロード機能の一時停止
 - SNSや図書館ウェブサイト上で不適切利用を想起・誘発させかねない記載
 - 周知期間の短さによる現場の混乱、措置の妥当性？
- 2022/4/27： サービス再開
 - 利用条件・利用規約の明示
 - 連続ダウンロードのシステムの抑止
 - 利用ログによる確認体制の強化
- 2022/6/29： サービス利用方法の変更
 - ダウンロードには所属機関ドメインのメールアドレス登録が必要

和書の電子書籍における課題

「早慶和書電子化推進コンソーシアム」発足
<https://www.waseda.jp/top/news/84352>

- 早慶和書電子化推進コンソーシアム
 - 紀伊國屋書店、国内出版社5社と提携
 - 2022年10月～：約1,200点のコンテンツ提供（期間限定）
- 課題



利用しやすい電子書籍は
待っているだけでは増えない

1. 大学図書館が購入可能な和書の**電子書籍タイトルが少ない**
2. 冊子体と電子書籍の**同時出版がなされないケースが多い**
3. 大学図書館での利用時の**条件の制限や使いにくさ**（同時アクセス数の制限、ダウンロード不可等）
4. 電子書籍を大学図書館の**検索システムで発見するために必要なデータの精度や質の向上が不十分**
5. **購読モデルの選択肢**が限られている（大学の要望に合ったコンテンツのサブスクリプション、利用実績に基づいたタイトル購入等の選択肢がない）

出版社の状況は？

用紙代の値上げは、大幅なもので、**今後の本の価格に影響が出ることは間違いない。**

新刊については、価格を引き上げざるを得ないと思われる。

こうなると、電子書籍は用紙代がない分、価格に影響はないので、

とりあえず増刷は電子書籍でということも考えなくては、いけないかも知れない。

こうして電子書籍化は進むことになるのかもしれない。

けれども、一般の書店さんでは、電子書籍を今の所扱ってもらえない。

出版協「用紙代値上がりで.....（ほんのひとこと）」<https://www.shuppankyo.or.jp/post/honnohitokoto20220709>

蔵書構成とは（再掲）

図書館蔵書が**図書館のサービス目的を実現する構造となるように、資料を選択、収集して、計画的組織的に蔵書を形成、維持、発展させていく意図的なプロセス**であり、収集方針の決定と調整、ニーズ調査、利用（者）調査、蔵書評価、資源共有計画、蔵書維持管理、除籍などの諸活動が含まれる。

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典 第4版』丸善出版、2013

最後に

- 「作業」に追われていないでしょうか？
- 業務の「本質」を考える時間を作る
- 図書館コミュニティで知恵を出し合いましょう！

質問・意見・雑談、お気軽にご連絡ください。

ojiro.tomomi@mail.u-tokyo.ac.jp

参考資料

- 藤原是明編『図書館情報資源概論』 ミネルヴァ書房、2018年
- 志保田務編『情報資源組織論 第2版』 ミネルヴァ書房、2016年
- 新NACSIS-CAT/ILLについて
 - これからの学術情報システム構築検討委員会>ドキュメント
<https://contents.nii.ac.jp/korekara/documents>
 - これからの学術情報システム構築検討委員会>CAT/ILLリプレイス & 電子リソースデータ共有サービス説明会
<https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/event>
 - これからの学術情報システム構築検討委員会>図書館システム・ネットワークプロジェクト2022
<https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw>
- 令和3年度国立国会図書館年報
 - https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12357071_po_nen_r3.pdf?contentNo=1
- 文部科学省>学術情報基盤実態調査
 - https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm
- saveMLAK>COVID-19調査>国立大学図書館
 - <https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey#.E5.9B.BD.E7.AB.8B.E5.A4.A7.E5.AD.A6.E5.9B.B3.E6.9B.B8.E9.A4.A8>
- カレントアウェアネス「E2412 - 令和3年著作権法改正：図書館関係の権利制限規定の見直し」
 - <https://current.ndl.go.jp/e2412>